

校訂版
W・スタンレー・ジェヴォンズ選集
全2巻

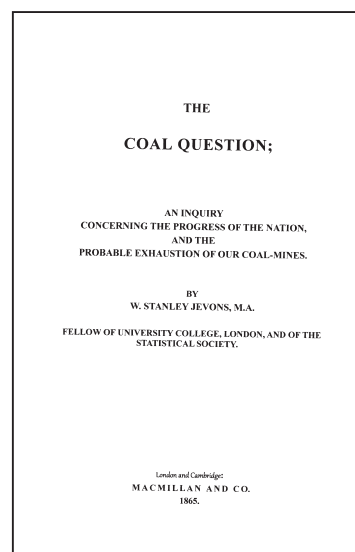
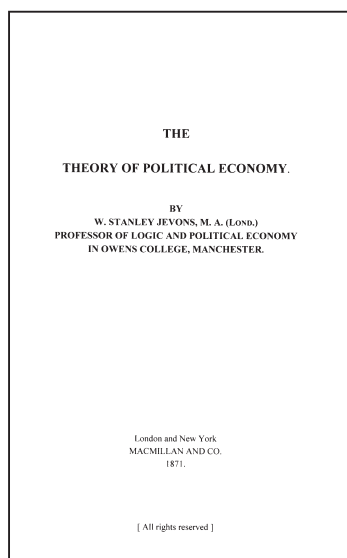
W. STANLEY JEVONS
SELECTED WORKS IN VARIORUM EDITIONS
in Two Volumes

【編集・解説】井上琢智（元関西学院大学学長）

2018年11月刊行 B5判・総772頁 本体セット価：78,000円（+税） ISBN：978-4-86166-205-8

【国内総代理店】株式会社極東書店

- 19世紀を代表する英国の近代経済学者の一人ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ（William Stanley Jevons, 1835–1882）が生前に手を加え、版を重ねた経済学分野の主著2書『石炭問題』と『経済学理論』の初めての校訂版。
- 各初版を新組で収録し、死後に刊行された異版も含む、『石炭問題』第2～3版、『経済学理論』第2～5版およびブラック版との差異の詳細な比較対象を各章文末註に掲載。校訂注の数は4,700点近くにのぼり、全体の約半分のページがこれに割かれている。
- 各版の統計データや図表の変更なども可能な限り照合し、ジェヴォンズ生前の思考と著作活動の流れを明らかにする。
- 編者による序文、解説に加え、ジェヴォンズ没後のリプリント版などに加えられたジェヴォンズ研究者による重要な解説などの豊富な資料は合計31件の補遺として収録、さらに人名索引を各巻に収録し、加えて第II巻末には、ジェヴォンズの自然科学・論理学科学方法論等に関する論文・著作とその書評・翻訳、学会報告および追悼文を含む決定版ともいえる書誌を収録する。
- 今後のジェヴォンズ研究だけでなく、経済学史研究や英国19世紀経済史研究の指針ともなる重要文献。



Edition Synapse

校訂版 W・スタンレー・ジェヴォンズ選集 全2巻

W. STANLEY JEVONS,

SELECTED WORKS IN VARIORUM EDITIONS in Two Volumes

編集・解説●井上琢智（元関西学院大学学長）

2018年11月刊行 B5判・約772頁 本体セット価：78,000円（+税） ISBN：978-4-86166-205-8

◆◆◆編者より◆◆◆

ジェヴォンズの『石炭問題』と『経済学の理論』各版対照版の発刊

—科学者ジェヴォンズから経済学者ジェヴォンズへ—

井上琢智

ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズは、化学を中心とする自然科学や数学をUCL（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン）で学んだ後、シドニーの造幣局での勤務の傍ら、オーストラリア初の気象科学者として気象データの蒐集、試金技師として地質学調査、動物保護運動の一環としてアボリジナル問題を扱うなど、様々な社会調査を実施し、さらに当時運営形態が課題になっていたその鉄道とその運賃研究から本格的な経済学の研究へと向かった。

科学から経済学へ転向し、経済学研究者への道を選んだジェヴォンズはUCLへ復学した。そこでまず微積分を学び、統計的手法を用いたオーストラリアでの地質研究を踏まえて、従来一般的であった石炭埋蔵量研究に加え、石炭の経済学的分析を行った。その成果は石炭だけでなく、現在実現しつつある風力、潮汐力、水素ガス、地熱、太陽熱などの代替エネルギーをも検討した著書 *The Coal Question* 『石炭問題』（1865）として発表された。このなかでジェヴォンズは、石炭枯渇と価格上昇に起因するイギリスの経済衰退に警告をならし、衰退前に国債の償却を推進することを提案した。この問題提起は、グラッドストーンや下院議員 J. S. ミルにより議会の関心を引き、少なくとも14編の書評等が出され、翌年にはそれを踏まえた第二版が出版された。この出版により、UCL教授で著名な化学者で、恩師で長州・薩摩の留学生を世話した A.W. ウィリアムソンや彼のアシスタントで従兄弟でも化学者であった H.E. ロスコアの援助もあり、オウエンズ・カレッジ・マンチェスターに研究者としての職を得た。第三版は A. W. Flux により1906年に出版されたが、それは、石炭供給王立委員会が1905年に刊行した *Final report of the Royal Commission on coal supplies* を踏まえて、資料等の大幅な改訂をほどこし出版されたものであった。1901年に任命されたこの委員会は、石炭が単なるエネルギー源としてだけでなく、世界の戦略物資となりつつあった当時の石炭供給の実情を把握するためのものであった。

一方、オーストラリア時代に鉄道運賃、私営・国営問題への関心から経済学の研究始めたジェヴォンズは、1858年に「経済学は数学の一種」だとの認識に達していた。これが当時高等数学であった微積分を学ぶために帰国したもう一つの目的だった。その認識に基づく理論を最初に公表した論文が、'Notice of a General Mathematical Theory of Political Economy' (1862) で、それを拡張し、概念を厳格化したものが、'Brief Account of a General Mathematical Theory of Political Economy' (1866) であった。『経済学の理論』 *Theory of Political Economy* (1871) はその集大成といえる。この『理論』は、「権威の有害な影響」を与えていたリカード＝ミル経済学批判と、マルサス＝シーニア経済学への接近、そして数理経済学の重要性の主張であった。1879年の第二版では、「数理経済学文献目録」を追加し、F. ハチソン、G. ダーウィン、チューネン、ワルラスなど「数理経済学」の「忘れられた経済学者」の文献を発掘し紹介した。また、この新版は、記号論理学の先駆となった *Pure Logic* (1864) や J. S. ミルの科学方法論も批判し、'probability' 概念を導入することで、シャーロック・ホームズの推理を支えた *Principles of Sciences* (1874) の成果を反映させた。死後に刊行された第三版（1888）は、妻 Harietta により編集され、「数理経済学文献目録」が H.S. フォックスウェル、F. Y. エッジワースなどの協力で修正・増補された。四版（1911）と五版（1957）は息子で経済学者である H. S. ジェヴォンズにより編集され、ジェヴォンズが残した「利子理論」と遺書 *Principles of Economics* (1905) のなかでその章タイトルのみ示された、第25章「資本」の草稿が収録された。

本書第Ⅱ巻では、これら『経済学の理論』の各版異同・追加に加えて、ジェヴォンズ研究だけでなく、近代経済学史研究で世界の指導的役割を果たしたブラック (R. D. Collison Black) のペンギン版 (1970) の序文・編集者注をご遺族のご理解を得て収録し、ジェヴォンズ研究の当時の一到達点を追えるようにした。

今回の校訂版は、ジェヴォンズ思想・理論形成過程を明らかにしたいという編者の意図から、各書の初版を底本として用い、その後の各版異同を編者注の形で収録した。また、各巻に人名索引を付し、『石炭問題』については、言及された人物については可能な限り略伝を記した。

なお、第Ⅱ巻の補遺26に収録した 'Bibliographical List' は、ジェヴォンズ経済学を専門とする研究者で、メルボルンのモナッシュ大学に在籍していた M. V. ホワイト氏の協力を得て作成したジェヴォンズ業績目録である。すでに紹介したように、ジェヴォンズの業績は、経済学だけでなく、化学、気象学、黒点研究、石炭を含む地質学などの自然科学、論理学、科学方法論、貨幣論、景気変動・循環論、社会改良政策、労働問題など多岐にわたる分野に及ぶ。この目録はそれぞれの分野の入門書の著述、学会報告記録などを網羅しているだけでなく、ジェヴォンズの各種著述の書評や、邦訳を含む各国での翻訳、追悼文の文献リストをも収録している。というのは、ジェヴォンズ思想・理論の形成、発展過程を中心とする全体像を明らかにするうえで必要不可欠なものであると考えたからである。

推薦文 「独創的な経済学者ジェヴォンズ」

八木紀一郎（摂南大学学長・京都大学名誉教授）

ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズは19世紀半ばのイギリスにあらわれた天才の一人である。経済事情のため、学業半ばにしてオーストラリアに渡らなければならなかった青年は、試金技師としての業務のかたわら、その数理的素養を経済学に応用しはじめた。帰国後、当時支配的であった古典派経済学の教科書に不満をおぼえ、限界効用にもとづく価値論、あるいは「快樂と苦痛の微積分学」という自分のアイデアを論文にまとめた。彼は本著に収録されているこの論文を大英学術協会に送りその部会で読み上げさせたが、誰からも注目されなかった。1862年のことである。当時は、ジョン・スチュアート・ミルによって洗練された古典派経済学のもとで、価値の理論は完成したもののよう思われていたのであった。その後数年して、気を取り直して『経済学理論』を執筆し、それを1871年に出版しなければ、彼は限界革命の「埋もれた先駆者」になっていたことであろう。

ジェヴォンズは思想から出発するのではなく、データのなかに問題を発見し、それを論理的あるいは数理的に取り扱うことで結論を引き出そうとする実践的な学者であった。思想家というよりも科学者であったと言ってもよい。イギリスの産業の支えであった石炭の枯渇可能性に注目し、当時可能なかぎりのデータにもとづいて警鐘を鳴らしたこと（『石炭問題』1865年）にも、その個性がよくあらわれている。

編者は英国および日本の経済学の文献に詳しい碩学である。30年以上前に『ジェヴォンズの思想と経済学—科学者から経済学者へ—』（1987年）を公刊し、欧米における研究と呼応して経済学史の研究領域をいわゆる「近代経済学」にまで広げることに貢献した。今回はジェヴォンズ若年の二著の版別の異同調査をおこなった集注版を刊行することで、海外も含めた後続する研究者に有益な研究ツールを提供した。古典派の衰退からアルフレッド・マーシャル『経済学原理』（1890年）の出現にいたる時代の英国経済思想の理解に資することは間違いない。

CONTENTS:

Volume I: *The Coal Question, An Inquiry Concerning the Progress of the Nation, and the Probable Exhaustion of Our Coal-mines.* (Variorum edition based on the first edition in 1865 with editorial notes and appendixes.), approx. 405 pp.

W. Stanley Jevons (1835-1882) : From a Man of Science to an Economist, by Takutoshi Inoue

Headnote of *The Coal Question*, by Takutoshi Inoue

Textual Note of *The Coal Question*, by Takutoshi Inoue

Abbreviations

Acknowledgements

Introduction

Chapters I – XVII (Texts based on the first edition 1865 and end notes by Takutoshi Inoue)

Appendix I: Preface to the second edition

Appendix II: Index

Appendix III: Preface to the third edition

Appendix IV: Explanation of Plates

Appendix V: Name Index

Volume II: *The Theory of Political Economy* (Variorum edition based on the first edition in 1871 with editorial notes and appendixes.), approx. 380 pp.

Headnote of *The Theory of Political Economy*, by Takutoshi Inoue

Textual Note on *The Theory of Political Economy*, by Takutoshi Inoue

Preface and Introduction

Chapters I – VIII (Texts based on the first edition 1871 and end notes by Takutoshi Inoue)

Appendix I: Preface to the second edition

Appendix II: Logical Method of Economics

Appendix III: Disutility and Discommodity

Appendix IV: Theory of Dimensions of Economic Quantities

Appendix V: Popular Use of the Term Value

Appendix VI: Dimension of Value

Appendix VII: Analogy to the Theory of Lever

Appendix VIII: Negative and Zero Value

Appendix IX: Variation of the Price of Corn

Appendix X: Dimension of Labour

Appendix XI: Relations of Economic Quantities

Appendix XII: Joint Production

Appendix XIII: Dimension of Capital, Credit, and Debit

Appendix XIV: Dimension of Interest

Appendix XV: Peacock on the Dimension of Interest

Appendix XVI: List of Mathematico-Economic Writings

Appendix XVII: List of the Author's Economic Writings

Appendix XVIII: 'Notice of a General Mathematical Theory of Political Economy,' Report of British Association for the Advancement of Science, 1862 (1863), Notices and Abstracts of Miscellaneous Communications to the Section (Statistical Science), pp. 158-59.

Appendix XIX: 'Brief Account of a General Mathematical Theory of Political Economy,' Journal of the Statistical Society of London, vol. xxix (1866), pp. 282-87 (reprinted in the Theory of Political Economy, ed. by H. S. Jevons, 4th edition, 1911, Appendix III, pp. 303-14)

Appendix XX: 'Note by the Editor on the Author's Theory of Interest (Theory of Political Economy, ed. by H. S. Jevons, 4th edition, 1911, Appendix I, pp. 279-293)

Appendix XXI: A Fragment on Capital, Interested to form part of Chapter XXV, Author's Principles of Economics (Theory of Political Economy, ed. by H. S. Jevons, 4th edition, 1911, Appendix II, pp. 294-302)

Appendix XXII: Preface to the third edition by Harriet A. Jevons (1888, pp. li-lii.)

Appendix XXIII: Preface to the fourth edition by H. Stanley Jevons (1911, pp. lv-lix.)

Appendix XXIV: Preface to the fifth edition by H. Stanley Jevons (1957, pp. i-iii.)

Appendix XXV: Introduction and Notes to the Penguin Books's Edition by R. D. Collison Black (1970, pp. 7-39, 262-71.)

Appendix XXVI: Bibliographical List of W. S. Jevons's Writings, etc., by Takutoshi Inoue and Micheal V. White. With a list of the reviews and translations of his writings and obituaries of him, by Takutoshi Inoue

Appendix XXVII: Name Index

J・S・ミル フランス日記

—関西学院大学図書館所蔵未公刊日記手稿ファクシミリ・リプリントおよび翻刻・注釈 全1巻

J. S. Mill's Journal and Notebook of a Year in France, May 1820-July 1821

【編集・解説】井上琢智（元関西学院大学学長）

A4判・約300頁 本体価格 ¥24,800-（+税） ISBN 978-4-86166-181-5

John Stuart Mill が青年期に留学し1年強を過ごしたフランスでの記録の詳細。ミルのフランス日記の原本は大英図書館とセント・アンドリュース大学所蔵の2種が知られるが、本書はこれらとは異なる関西学院大学所蔵の第3番目の原本をファクシミリ復刻。合わせて、3種すべての原本のテキストを忠実に翻刻し収録、詳しい注釈と3種のテキスト間の比較研究を加えている。

イングランドの地方都市

—ヴィクトリア期・エドワード期のガイドブックコレクション

Provincial Towns in Victorian and Edwardian England:

A Collection of Local - Town Handbooks for the British Association for the Advancement of Science

【編集・解説】伊藤航多（津田塾大学）

◆第1期 北部編 (Northern England) 9文献・合本6巻＋別冊解説

A5判・約2,350頁（折込地図・図版多数） 本体価格 ¥128,000-（+税） ISBN 978-4-902454-88-8

◆第2期 中部・南部編 (Middle & Southern England) 8文献・合本6巻＋別冊解説

A5判・約2,250頁（折込地図・図版多数） 本体価格 ¥128,000-（+税） ISBN 978-4-902454-89-5

産業革命とともに近代化が進んだ、19世紀～20世紀初頭の英国の地方都市に関する同時代のガイドブックの復刻集成。収録16都市：Newcastle-upon-Tyne, York, Leeds and Airedale, Bradford, Southport, Liverpool, Manchester, Sheffield, Nottingham, Leicester, Birmingham, Canterbury, Dover, Portsmouth, Bath, Bristol

英国近代郵便の成立 —19世紀文献集成— 全8巻＋別冊解説

The Foundations of the Modern Post-Office in Britain; A Collection of the Nineteenth Century Sources

【編集・解説】新井潤美（上智大学）

A5判・約3,000頁 本体価格 ¥138,000-（+税） ISBN 978-4-902454-87-1

19世紀の英国郵便近代化に関する同時代の主要著作8点を収録する復刻集。英国郵便史の初期概説書や、ローランド・ヒルを始め郵便近代化に関わった人物自身による著作を中心に、ヴィクトリア期の英国郵便の実態をできる限り生き生きと伝えてくれる文献を集め、一次史資料集として提供。

名古屋大学附属図書館蔵 『水田文庫貴重書目録』 全1巻

The Mizuta Library of Rare Books in the History of European Social Thought:

A Catalogue of the Collection Held at Nagoya University Library

【編集・解説】中井えり子（元名古屋大学附属図書館） 【序文】坂本達哉（慶應義塾大学経済学部）

B5判・約400頁 本体価格 ¥29,800-（+税） ISBN 978-4-86166-191-4 発売元：(株) 極東書店

名古屋大学附属図書館が所蔵する、アダム・スミス研究で世界的に著名な水田洋（日本学士院会員・名古屋大学名誉教授）旧蔵書の核をなす2100冊以上の西洋古刊本の目録。ヨーロッパ啓蒙思想・社会思想史分野の世界有数の個人コレクションで、幅広い著者の諸版本や各国語訳を収録。



発行元：Edition Synapse

（エディション・シナプス）

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-5-201

TEL: 03-6257-1030 FAX: 03-5521-0026

http://www.aplink.co.jp/synapse

国内総代理店：

株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町2-7-10

帝都三崎町ビル

TEL: 03(3265)7531 FAX: 03(3556)3761

E-MAIL: sales@kyokuto-bk.co.jp